

## 地理学教室便り (2017年度)

本誌は地理学教室の教員が編集責任を負いますが、OGの編集委員の協力により同窓会のページも充実しつつあります。先号よりOGによる研究論文も掲載され、専任教員、大学院生、卒論生、OGが執筆した論文・記事により紙面が構成されています。本誌のバックナンバーが、本学webサイトの教育・研究コレクション「TeaPot」ですべて読めること（「図書館」→「お茶の水女子大学の学術雑誌」）、また近年の夏の大巡検の報告書が収録されていること、さらに優秀卒論1～2編の本文掲載など、教室の教育・研究成果を広く伝える雑誌となりつつあると考えています。

2017年度の地理学教室の構成員を紹介します。教員構成は昨年度から変更はありません。専任教員は、学部地理学コースに水野（主任）、宮澤、長谷川の3名が、グローバル文化学環に熊谷、倉光がそれぞれ在籍しています。大学院博士前期課程ジェンダー社会科学専攻地理環境学コースでは、専任教員として熊谷、水野、宮澤（代表）、長谷川、倉光の5名が、そして兼任教員として開発・ジェンダー論コースの小林教授（国際関係論）、荒木准教授（開発研究、アフリカ地域研究。2017年度はサバティカル期間）が、教育・研究指導を担当しています。これら7名の教員は全員、大学院博士後期課程ではジェンダー学際研究専攻の教員です。

地理学教室事務室のアカデミック・アシスタント(AA)は、前期には古野、岩崎、後期には古野、福田が担当しました。お茶の水地理学会事務局は、東野が引き続き担当しています。2017年度の非常勤講師の先生方は、以下の通りです。学部のコア科目・LA（リベラルアーツ）において、鈴木智恵子、吉岡由希子、伊藤修一、片岡久美（以上、情報処理演習）の各先生方、地理学コースの専門科目では、佐々木リディア（地理環境学演習Ⅲ）、田中恭子（地理環境学演習Ⅰ）、齋藤元子（地理学英書講読）、小堀昇（地図学）、中山大地（測量学）、早川裕弐（環境地理学基礎演習）、伊藤修一、目代邦康、佐々木リディア（以上、地理学フィールドワークB）、目代邦康（環境地理学演習Ⅰ）、謝陽（地理学フィールドワーク演習）、渡邊智紀（社会科教育法Ⅰ）、玉谷直子、中村光貴（以上、地歴科教育法）、大学院では山下清海（環境文化論）の各先生方に担当していただきました。講師の先生方には、この場を借りてお礼申し上げます。

学部地理学コースの学生は、2年生が11名、3年生が12名、4年生が14名でした。進学者数が年度によって上下しますが、10名超で推移し、演習・実習・巡検を安定して実施できるようになっています。地理環境学副プログラム（他分野のプログラムを主専攻としつつも、副専攻として地理学のプログラムを選ぶ）の学生が、3年生が3名、4年生が8名となっています。また本学が短期、長期の海外留学を促進していることもあり、本コースでは1名がタイの協定校に短期留学（3カ月）しました。学部地理学コースでは、海外提携校への長期留学と地理環境学プログラムの必修科目の履修調整を行い、4年間で卒業できる履修モデルを開発し、留学しやすい教育環境を作りました。ところで、長谷川の授業から派生し、今年度の4年生を中心に活動し、広く話題にもなった「地理×女子＝新しいまちあるき」（雑誌『地理』2016年3月増刊号）はさらに発展を見せ、ゼンリンとの共同で、本学キャンパス周辺の護国寺・茗荷谷の地形図・古地図・イラスト地図を駆使したカラー・クリアファイル、メモ帳、ノートを本学生協で発売しています。今年度卒業した13名の学生の進路は、民間企業（7名）、法人（3名）、公務員（1名）、進学（2名）でした。

大学院博士前期課程では6名が入学し、博士後期課程の入学はありませんでした。院生数は博士前期・後期あわせて17名でした。大学院博士前期課程修了者5名の進路は、民間企業3名、帰国2名でした。また久島桃代さんは、本学大学院人間文化創成科学研究科研究院研究員として、研究活動を行っています。教員それぞれが科学研究費を代表・分担で獲得しており、その内容については本学公式HPの「学部・大学院」→「研究者情報」をご覧ください。

最後に、2017年度に実施した巡検の一覧と、教室構成員が公表した主な研究成果一覧を掲載します。7月に実施した裾野大巡検の内容については、本誌の巡検報告をご覧ください。構成員一同、地理学の教育・研究にこれからも着実に努力していく所存です。本誌のさらなる愛読と、これからもご指導・ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

(2017年度学部地理学コース主任 水野 勲)

## 2017年度実施の巡検（一覧）

- 4月 お茶の水（水野）  
一日巡検の事前授業（水野）
- 5月 成城・田園調布（宮澤）
- 6月 相模川がつくった段丘の地形と河川環境（\*目代）
- 7月 裾野大巡検（長谷川）
- 9月 和光の湧水とその保全（長谷川）
- 10月 千葉市の中心市街地の再編（\*伊藤）  
多摩ニュータウン（宮澤）
- 11月 東京下町（水野）  
大都市近郊における里山保全（横浜市青葉区寺家地区）（\*佐々木）
- 12月 環境活動リサーチー環境エコプロダクツ（長谷川）
- 3月 お茶大周辺の地理案内（長谷川）  
（\*は、非常勤講師による巡検）

## 2017年度に公表した主な研究成果（一覧）

### 執筆物

- 秋山元秀・小野有五・熊谷圭知・中村泰三・中山修一編  
2018.『世界地名大事典 第1巻 アジア・オセアニア・極Ⅰ〈アーテ〉』朝倉書店.
- 秋山元秀・小野有五・熊谷圭知・中村泰三・中山修一編  
2018.『世界地名大事典 第2巻 アジア・オセアニア・極Ⅱ〈トーン〉』朝倉書店.
- 小野坂知子 2017. 和歌からみたコンテンツ・ツーリズムの枠組みー歌枕の類型表現と旅の形成過程に注目して. お茶の水地理 56: 39-48.
- 久島桃代 2017. 「からだ」という空間ーフェミニスト地理学の誕生からロビン・ロングハーストまで. 空間・社会・地理思想 20: 15-26.
- 倉光ミナ子 2017. アポリマ海峡ほか. 秋山元秀・小野有五・熊谷圭知・中村泰三・中山修一編『世界地名大事典 第1巻 アジア・オセアニア・極Ⅰ〈アーテ〉』朝倉書店.
- 倉光ミナ子 2017. サモア独立国ほか. 秋山元秀・小野有五・熊谷圭知・中村泰三・中山修一編『世界地名大事典 第2巻 アジア・オセアニア・極Ⅱ〈トーン〉』朝倉書店.
- 佐藤廉也・宮澤 仁編著 2018.『現代人文地理学』放送大学教育振興会.
- 野口奈那子 2017. 家族の変容から見る民営霊園の立地と景観の特性ー埼玉県南部を事例地域として. お茶の水地理 56: 29-38.
- 長谷川直子 2017. 地理的面白さを広めるために. 最新地歴資料 19: 18-20.

- 長谷川直子 2017. 宮路秀作著『経済は地理から学べ!』(書評). 地理: 62(12): 119.
- 長谷川直子 2017. 大学生の「ご当地グルメ」に対する認識. お茶の水地理 56: 59-64.
- 長谷川直子 2017. 地理学のアウトリーチ・科学コミュニケーション活性化のために. E-journal GEO 12(1): 151-154.
- 長谷川直子 2017. 歴史と地理をつなぐ1ーはじめに. 地理の研究 197: 1-3.
- 長谷川直子 2018. 地理でコミュニケーション! (13) 地理コミュニケーションのこれから. 地理 63(2): 92-98.
- 水野 勲 2017. 地理的カタストロフとしての原発の過酷事故ーエクメーネの再概念化. 理論地理学ノート19: 71-89.
- 水野 勲 2017. 相模原. 平岡昭利編『読みたくなる「地図」東日本編ー日本の都市はどう変わったか』海青社. 70-71.
- 宮澤 仁 2017. 医療・福祉の強靱化と地域包括ケアシステム. 測量 67(10): 12-17.
- Kuratmitsu, M. 2018. Focusing on family in the process of Samoan migration: A case of three women's migrant experiences to Auckland in the 2000s. *People and Culture in Oceania* 33:17-35.
- 口頭発表・講演・ポスターセッション
- 新垣みのり 2017. 「地域創生」の要件を巡る一考察ー沖縄県恩納村の女性グループによる地域資源活用の取り組み事例からー. 経済地理学会大会 (明治大学).
- 木村由梨 2018. 地域産業から生まれた文化の継承と地域アイデンティティの再興ー川口市初午太鼓を事例として. 日本地理教育学会 全国地理学専攻生卒論発表大会 (東京学芸大学).
- 久島桃代 2017. 農村に移住する女性たちと地域社会ージェンダーの視点から. 2017年度東海ジェンダー研究所個人助成受託者報告会 (東海ジェンダー研究所).
- 久島桃代 2017. 身体性と場所に依拠したライフストーリーーインタビューの試みー福島県昭和村における「からむし」と女性移住者との関わりから. 人文地理学会大会 (明治大学).
- 熊谷圭知 2017. お茶大「陸前高田実習」の6年ーわたしたちは被災地に何を学んだか, 何を還せるのか? 日本地理学会秋季学術大会 (三重大学).
- 熊谷圭知 2017. 感情・身体・風土の地理学とフィールドワークー「被災地」陸前高田からの試論. 人文地理学会大会 (明治大学).

- 熊谷圭知 2017. 移動・開発・場所とフィールドワーカー  
パプアニューギニアの動態地誌. 日本オセアニア学会  
関東地区例会 (東京医科大学).
- 倉光ミナ子 2017. 日本におけるサモア人妻たちの子育て.  
お茶の水地理学会講演会 (お茶の水女子大学).
- 斉藤美沙季 2018. 経済連携協定 (E P A) に基づく外国  
人看護師候補者受け入れにみられる大都市集中傾向  
—東京圏を事例とした要因分析. 日本地理教育学会  
全国地理学専攻学生卒業論文発表大会 (東京学芸大  
学).
- 崎浜奏子 2017. 日本における性的少数者によるプライド  
パレードの意義と展望—東京レインボープライドを  
事例として. 人文地理学会大会 (明治大学).
- 佐藤香澄 2017. 広域合併地域における地域包括ケアシ  
ステムの構築に向けた取り組み—秋田県北秋田市を事  
例に. 経済地理学会 関東支部例会修士論文発表会 (明  
治大学).
- 谷口博香 2017. 首都圏在住のバングラデシュ人の多様性  
と生活空間. 人文地理学会大会 (明治大学).
- 長尾悠里 2017. 学校統合の議論展開からみた学校の象徴  
性—埼玉県秩父市大滝地区を事例に. 東北地理学会春  
季学術大会 (仙台市戦災復興記念館).
- 長谷川直子 2017. 地理・地形で読み解く山形の魅力. 平  
成29年度山形学フォーラム (山形市遊学館ホール).
- 長谷川直子 2017. 地理学のアウトリーチの手段として  
のご当地グルメ絵葉書の効果. 日本地理学会秋季学術大  
会 (三重大学).
- 長谷川直子 2018. 新ビジョンに期待すること. 日本地理  
学会春季学術大会シンポジウム これからの地理学と  
日本地理学会—「新ビジョン」のめざすもの. 日本地  
理学会春季学術大会 (東京学芸大学).
- 畠山輝雄・宮澤 仁・中村 努 2018. ローカル・ガバナ  
ンスの観点による地域包括ケアシステムの地域差の検  
討. 日本地理学会春季学術大会 (東京学芸大学).
- 三浦尚子 2017. 「地域」とのエンカウンターによる精神  
科病院入院患者の諸実践の変化—関係論の地理を分  
析枠組みに据えて. 日本地理学会秋季学術大会 都市  
の社会・文化地理学研究グループ (三重大学).